

TIJ 日本語教育研究会通信

No.66 2019.10.1 発行

発行：T I J 日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩 1-17-10

Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102

E-mail: tij@tij.ne.jp

TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



台風 15 号による記録的な暴風雨が関東地方に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

TIJ では 3 月に続いて 6 月も「中級から学ぶ」三訂版の文型の勉強会を開き、教師たちが学生にわかりやすい例文について知恵を出し合いました。夏には毎年恒例の日本語教育振興協会主催日本語学校教育研究大会が開かれ、T I J から数名が参加しました。今号にご報告を掲載しました。

また T I J で教育実習コースを修了した方と、大学生の教育実習のレポートも掲載しました。

【本号の内容】

1. 日振協主催日本語学校教育研究大会報告
2. 「中級から学ぶ」三訂版勉強会報告
3. 日本語教育実習コース研修レポート
4. 教育実習レポート

日振協主催平成31年度日本語学校教育研究大会報告

分科会 I 「日本語教育を学ぶ大学生・大学院生と日本語学校教育の意見交換会 4 —留学生も！日本語教師も！日本語学校で研究テーマを探そう！—」

松木 千加子

本分科会では大学院で学ばれた先生方の大学院進学の動機から、大学院での学び、その後の現在に至るまでの実体験の発表を通して、「現場(日本語学校)での疑問、気づきを大学院で研究し、さらに現場に戻り実践していく」ことを提唱するという内容でした。そこで、日本語学校には研究テーマとなり得る事例が多々あるのではないかという問いに対し、参加者がグループワークを行い、日頃の問題等を出し合い、ポスターツアー形式で発表しました。以下、分科会の流れ、発表内容、所感を報告いたします。

1.はじめに

・留学生への大学院指導(日本語学校の立場から)

大学院志望の留学生は大卒で来日しているが、研究レベルの日本語力がない。

→日本語学校での学習時間が足りない。研究計画書作成が難しい。

参考数値として平成15年から5年間で留学生数は3倍、大学院で学ぶ留学生は2倍となっている。

・日本語教師として大学院へ行きたいと思ったことがあるか。

大学院進学の原因としては、キャリアアップ、現場での疑問点、研究を通して教え方に幅が出る等。

大学院に進学し、「現場での気づき→大学院で研究→現場で活かす」という流れがある。

大学院進学の原点である現場での気づきは日本語学校に多くあると考えられる

⇒本日のテーマ「日本語学校で研究テーマをさがそう！」

2.大学院で研究するに至る道 佐藤正則先生(山野美容芸術短期大学)

・大学院に進んだ理由

実践(プロジェクトワーク)の中での問い、同僚・ベテラン非常勤講師の存在、大学院進学クラスの立ち上げ

職場の先輩の影響、細川英雄『日本語教育は何をめざすか』との出会い

・現場でさまざまなプロジェクトワークを実践する中で疑問を持ち、大学院へ進学

評価はどうするのか、日本語力とは何か、協働のあり方、レベル差、スキャンホールディングの方法、学習者中心？

在学中から現在に至るまで留学生や元留学生のライフストーリーを追う。

研究とは社会的責任(研究発表することにより責任が増す)、人とのつながり、実践を豊かにするもの

3.日本語教育の分野にはどんな研究テーマがあるのか、研究テーマの探し方とは

小井重津子先生(拓殖大学、東京大学、青山学院大学)

・日本語教育の研究領域はいかに広いか。

最近の学会発表テーマ：・学生のモチベーション ・作文と語彙力 ・自他動詞 ・「～と思う」習慣 ・ベトナム学習者の発音、 ・アクティブラーニング ・宿題に意味はあるのか等

・大学院生を指導する立場から、

計画書通りの研究をすることは非常に少ないので、それよりも研究の基礎体力が必要。(論理的に考える力、地道に文献を読む、意欲を持って取り組めるか)、学生の関心と指導教員のマッチング

・現在に至るまで

専門性のある日本語教師になりたい。→素人同然で博士前期課程に入学→教育経験は実習程度だったため、浅い理解だった。

修了後 中国へ

博士後期課程、同時に日本語学校・大学で非常勤講師での経験

→ようやく研究意味を深められるようになった

・経験を振り返ると、

教育を通して研究が充実する、教育実践の振り返りは確実に研究テーマになる。日頃の疑問になぜそうなるのか。また当たり前なことをなぜそうしているのかを振り返ることで、新たな気づきがある。

大学院進学に対して

大学院に行けば高い専門性に基づく教育ができるということではなく、教育経験をもとに大学院で研究することにより教育・研究の面で相乗効果がある。

4.グループワーク(時間配分:ポスター作成 40分 ポスターツアー20分 フィードバック 10分)

参加者を6つのグループに分け、日頃の課題、疑問、悩み等を出し合い、以下の内容をポスターにまとめる。研究テーマ ①はじめに ②研究概要 ③予測

1グループ テーマ:大学院志望者への指導方法

①はじめに:大学院を志望する留学生が増えている。しかし、「研究する意識、日本語力、知識が乏しい学生が多い。また、教師としても何をすればいいのかわからず、対応に困ることが多い。

②研究の概要:研究計画書に至るまでのライフストーリーのヒアリング。動機と結果がどう変わるか。

2グループ テーマ:進学のための記述指導 ―経験を言語化する―

①はじめに:進学や就職の際、記述があるが、目的に合った内容を適切な語彙表現で書くことができない。自己の経験、意志、目的を言語化することが難しい。

②研究の概要:言語化を引き出すための効果的な方法策を探る。

3 グループ テーマ: 初任教員がどうやったら負担少なく授業設計をしていけるのか

①はじめに: 現場を知らない新卒者が日本語教師を目指す時の課題を解決したい。

②研究の概要: 目的の多様化に対応するためのクラス運営の事例案、文化の違う学生に対する対応の仕方、教室活動における問題のケース学習

③予測: 新任の不安を削減できる

4 グループ テーマ: 評価が学習者のモチベーションにどのように関わるのか

①はじめに: モチベーションの低下の原因と日本語習得の関係

②研究の概要: 入学時から継続的に調査する。(インタビュー)

③予測: モチベーション維持が日本語習得に良い影響を与えると予測される。

5 グループ テーマ: 若者言葉の習得と日本語教育レベルの相関

①はじめに(背景): 外国人留学生在が日本人と交流を深めるときに、若者言葉が使えるかどうか、日本語習得に大きくかかわっているのではないかと考えた。

②研究の概要: 対照群による比較 ③予測: 相関あり

6 グループ テーマ: グループワークを活性化する方法

①はじめに: グループワークに慣れていない学生がいる。性格の問題か、日本語の問題か?

②研究の概要:

初級 日本語以外の言語でもコミュニケーション OK⇒結果の実日本語で発表、みんなで助け合える。

中級 タスクシートに色をつけて、役割を決めておく(司会、書記、発表者等)

共通 学生が興味のあるテーマを決める。あるいは、自由に決めてもらう。

5. 日本語学校から大学院へ、そして日本語学校で専任としての勤務

なぜ日本語学校に戻って来たか、大学院での研究はどう役に立っているか。

惟任将彦先生(名古屋 YMCA 日本語学院)

大学院進学 of 動機: 現場での問題解決に限界、この仕事を続けていくなら大学院を出ておくべき

大学院選び: 興味のある分野(異文化コミュニケーション)、大学院の立地、社会人にとって通いやすいカリキュラムか、奨学金

受験準備: 上司への許可、進学説明会、指導教官とのコンタクト

日本語学校へ: 修士論文が日本語学校での学生を対象としていたためそれを生かす。YMCA の理念に共感。

分科会に参加して

日本語学校をベースとして大学院進学⇔日本語学校という循環がすすめば、日本語教師を考えている大学生や若い先生方がキャリアデザインを考えるうえで、働き方に可能性

を感じ、明るいビジョンを描くことができるのではないかと思います。日本語学校においても大学院で学んだ成果を還元、実践することで、変化に柔軟に対応できる現場が増えるのではないかと思います。研究テーマと大げさにとらえなくても、日頃から問題意識を持って取り組む、また問題解決していくことの大切さを改めて感じました。

グループワークでは、他校の先生方と日頃の疑問を共有し、解決策を話し合う場があり、先生方の考え方で参考となる意見を聞くことができ有意義なものとなりました。

分科会Ⅱ「実践共有を通じた学び合い・その方法 7 -地域とのかかわり-」

山西 麻理

分科会「実践共有を通じた学び合い・その方法 7」に参加しましたので、ご報告いたします。前回に引き続き地域連携の取り組みの紹介を東京と静岡の2校が発表しました。

発表内容

1. 東京商工会議所との連携による実践例

- ①信用金庫の口座開設
- ②校内就職セミナーの実施
- ③周辺地域在住の小学生との交流会
- ④台湾夜市などのイベント交流
- ⑤政策提言

・まとめ

地元の経済人とつながっておくことで、社会に日本語学校を正しく理解してもらい、時には日本語学校側の声を社会に伝えることも容易になるのではないかと。

2. 静岡の地域連携の取り組みに

- ①町内行事への参加：防災会議・訓練（年2回）、学区・町内運動会（年2回）、地元神社の例大祭
- ②地元クラブ、NPOなどの共同事業：児童養護施設の夏祭りの運営
- ③市民の祭りへの参加：歌舞伎、花見行列、団体舞踊

・まとめ

周辺住民の意識により変化がみられた。

より地域に近い存在になるためには、公民館など地元の人が多くいる場所に定期的に訪れることが必要になる。

感想

分科会に参加して、日本語学校の仕事の一つとして「地域連携」の必要性があることは感じた。地震災害が頻繁に起きている現在、いつ東京にも地震が起きるかわからない状況の中で、日本語学校が地域の中で被災者になることを想定したとき、顔も知らない外国人が果たして地域の方々に受け入れてもらえるのかと不安になる。今からでも少し

ずつ地域の方々と交流を持ち、認知度を高めていければと思う。ただ地域連携に取り組めない理由の一つとして、専任講師の仕事量の多さがあげられる。少しでも地域との交流の時間を作るためには、まず講師の仕事量の見直しから始めてみたいと思う。そして地域住民と留学生・教師がお互いに良い関係が築け、また継続できるような活動を考えてみたいと思った。

分科会V 「特定技能」が日本語学校進路指導に与える影響」

北内直子

2019年度は「特定技能」「特定活動」という在留資格が新設され、留学生の就職戦線に大きな影響を与えることになりました。このような大きな変化にもかかわらず、「特定技能」の情報は錯綜しており、進路指導担当者として進学・就職を進めていく上で不安のないように情報収集したいと考えていた折の研究大会でまさにタイムリーな分科会でした。

1. 「特定技能」と「技能実習」、「特定活動」の違いについて

特定技能：14 業種。技能実習には含まれなかった外食・宿泊を追加して人手不足解消、即戦力労働者を獲得するための在留資格。

技能実習：技術移管できるように技能を習得することが目的なので、日本の労働力とはならない（はず）の在留資格。

特定活動：日本の大学・大学院を修了し、N1 または BJT480 点以上の日本語力を有する学生が取得可能な在留資格。「技人国」ビザが取得できなかった場合に取得可能。コンビニでの就労も可能。

2. 「特定技能」資格をとってどうやって働くか

各業種が行う試験に合格し、N4 以上の合格証を持ち、登録支援機関を通して就労先企業が決まっていること。

例：外食産業の場合 一般社団法人外国人食品産業技能評価機構（OTAFF）が実施する「特定技能 1 号技能測定試験」を受験する。

直近では第 3 回試験が日本国内で 9 月に実施、海外ではフィリピンやミャンマーで開催予定

登録支援機関の情報は法務省の HP に「登録支援機関登録簿」として記載

<http://www.moj.go.jp/content/001292890.xlsx>

この機関が、日本での生活サポート、日本語ケア、企業とのマッチング、ビザ申請等を支援する。

3. 今年の進路指導について

今年に限り日本語学校在籍の留学ビザから特定技能に変更は可能。

ただし、年度の途中での退学・変更はお勧めしない。入国後のビザの目的変更

には相応の理由が必要であるため、不可になる可能性が高い。

ベトナムに限り、2 国間協定によって日本語学校や専門学校を 2 年修了しないとビザ変更はできないという「2 年縛り」があるという説もあるが、確認が必要。

4. 各国学生の事例ごとに「特定技能」をすすめるかどうかのグループワーク報告

①ベトナム

- ・大卒、N4、学習意欲は低いが、就労意欲は高い → 卒業まで待つ特定技能に。
- ・高卒、N3、希望の進学できず → さらに進学先を探し、どうしてもなかった場合特定技能。働いて学費を貯めてから再度進学に挑戦という道を示す。
- ・高卒、新聞奨学生、N4、仕事がつらいのでやめたい → 違約金が発生するのでとにかく我慢させる。卒業をしてから特定技能に変更。

②中国

- ・中専卒、N2、長く日本で働きたい → 将来のキャリアプランを考え、専門学校を勧める。
- ・大専卒、N1、大学院志望だが、無理だとあきらめ仕事をしたい → 日本の大学編入を勧める。卒業すれば「特定活動」ビザが取れることを提示。

③欧米

- ・専門卒、アニメ好き、N3、日本に長くいたい。イタリア料理店でバイトしており就職したい → 来日目的からして就労は現実的ではない。

北内所感：単純労働を担い 5 年のみの滞在という縛りがある特定技能に対して、日本語学校や専門学校の教師たちは懐疑的であることをありありと感じた。来日時の借金返済のため就労を急ぐ学生は多いが、将来のキャリアプランを示し、本人がどうしたいかをじっくり聞き取る必要がある。また、今回のような大きな制度・環境の変化に際して、進路指導に関わる教師は一人で抱え込まずに複数で情報収集・共有していかなければならないことも再確認した。

「中級から学ぶ」三訂版勉強会報告

増田 寿枝

勉強会(2019 年 6 月 27 日)：参加講師 16 名

今回の勉強会では『中級から学ぶ日本語』の 7 課の文型を取り上げました。4 つのグループに分かれて(1)導入のための例文(導入方法)、(2)テキストの練習問題について話し合い、リストアップしました。皆で共有するため、各グループから出されたものを以下にまとめてみました。

【A. ～まで】普通に考えられる範囲/限界を超えている(賞賛、あきれ、驚き)

(1) 導入のための例文(導入方法)

①とてもおなかがすいています。自分のごはんは食べましたが、足りません。そんな時はどうしますか。

- ・おなかがすいていて、明日の分まで/夫の分まで食べてしまった。
- ・(十分な食べ物がなかった)戦争中は草の根まで食べていたそうです。

②父は魚が大好きですから魚の身だけでなく、いつも骨(頭、しっぽ)まで食べてしまう。

- ・(マヨネーズ好きの友だち) 刺身までマヨネーズをつけて食べる。
- ・(ピンクが好きな友だち) 服もピンク、車もピンク、髪の毛までピンク(テロなどの事件があった直後)日本に入国する時、かばんの中を調べられ、ポケットの中、靴の中、パンツの中まで調べられた。
- ・お金を盗られた店長は、家族まで疑われた。

③100円均一ショップはサンタクロースの衣装、枕、水着などいろいろなものがありますよね。(驚きのグッズ)他にもびっくりするものがありましたか。

- ・最近は便利になって、100円ショップに_____まである。

(2) テキストの練習問題

1.おなかがすいていて、友達に残した分まで食べてしまった。

人の分、弟の分、子供の分、草の根、かたくなったパン、明日のお弁当の分

※普通は食べないもの(※皿、箸など食べられないものは×)

2.最近は便利になって、結婚相手を探すアプリまである。

靴専門のコインランドリー

～できるアプリ(服を試着できる、写真を修整できる、自動翻訳ができる)

自動で掃除してくれるエアコン

タガログ語の避難用パンフレット

〇〇語の語彙リスト

※固有名詞ではなく具体的に説明した文の方が良い(自動運転の車→運転手がいなくても動く車、お掃除ロボット→掃除してくれるロボット、自動翻訳機→いいたいことを通訳してくれる機械)

3.「死にたい」なんて、彼がそこまで深刻に悩んでいるとは知らなかった。

「今すぐ結婚したい」／彼／真剣に考えている

「今の仕事をやめて、ゲームの会社をつくる」／彼／真剣に考えている

「彼女と結婚する」／兄／真剣に付き合っている

「彼のためなら死ねる」／姉／真剣に愛している

「学校をやめて、国へ帰りたい」／彼／悩んでいた(考えていた)

「連休は別々にすごしましょう」／妻／私を嫌っている

4. 妹は、10年前に私が言ったことまでよく覚えている。

おとなが知らない漢字

10年前に私が妹のケーキを食べたこと

私の子供のころの友達の名前

友達や親せきの誕生日

1回しか会ったことがない人の名前

5. 人を好きになると、その人のおいまで好きになってしまう。

その人が好きなもの、その人の国

その人の変わった趣味

その人のくせ、その人の欠点、短所（普通は好きにならないもの）

【B-1. ～によって】手段・方法

(1) 導入のための例文(導入方法)

① インターネットを使って、どんなことができますか。

→ いろいろな情報を得ることができる、世界中の人と交流できる、出願できる、買い物
できる

- ・ 最近インターネットによって_____できる。
- ・ 最近の携帯電話は、指紋によって本人確認をすることができる。
- ・ 最近の出国手続きは、センサーによって持ち物検査/本人確認ができる。

② 毎日練習することによって、何ができるようになりますか。

※ 練習するものをいろいろ挙げて話す 音楽、ダンス、スポーツなど

- ・ 毎日練習することによって、_____ようになる。(ができる。)
- ・ たくさん話すことによって、上手になる。

(2) テキストの練習問題

1. 最近インターネットによって、結婚相手を見つけよう(探そう)とする人が多い。

情報を得よう (手に入れよう)

ビジネスチャンスを広げよう

資金を集めよう

世界の動きを知ろう

志望校の情報を集めよう

2. 毎日漢字を練習することによって、しっかり覚えることができる。

練習する/技術を身につけること

ニュースを聞く/聴解力を伸ばすこと

アニメを見る/聞き取りの力を伸ばすこと

同僚と話す／会話力をつけること
コラーゲンを飲む／もちもちな素肌を手に入れること
プロテインを飲む／理想の体を手に入れること
※「～ようになる」のほうが作りやすければ文末を変える。

3. 外国語を学ぶことによって、その国の文化を知ろうと思う。

視野を広げよう
友達の輪を広げよう
外国人の友達を作ろう
世界中に友達を作ることができる
※「～たいと思う」のほうが作りやすければ文末を変える。

4. 音楽によって、世界中の人とつながることができる。

その場の雰囲気は大きく変わる（その場のムードが変えられる）
平和の大切さを伝えたい
世界は一つになれると思う
世界とつながることができる
言葉の通じない人とも交流できる
病気の症状(痛み、緊張)を和らげることができる
自分を表現することができる。

5. 何度もくり返し練習することによって、スムーズに話せるようになります。

漢字がきれいに書けるようになる
発音が上手になる
自転車に乗れるようになる
体で覚えることができる
何事も上達するものだ

【B-2. ～によって】原因・理由

《注意点》

「ため」との違い(病気のため、学校を休んだ。)

(1) 導入のための例文(導入方法)

①台風で、どんな被害がある？と学生に問う

→農作物に被害が出た、多くの学校が休校になった、大木が倒れた
同様に、「津波」「地震」なども聞く。

- ・津波によって、たくさんの家が流された。
- ・地震によって、町中が停電した。

②結婚したり、子供が生まれたりすると生活はどうなりますか。同様に「アルバイトを

始めたら」

→忙しくなる、幸せになる、自分の自由な時間がなくなる

③科学技術が進歩したら私たちの生活はどうなりますか。

- ・科学技術の進歩によって、私達の生活が便利になった。
- ・物価が上昇したことによって、人々の暮らしが苦しくなった。

(2)テキストの練習問題

1. 台風によって、農作物に大きな被害が出ている。

家屋が倒壊した

川の水があふれてしまった

神社の大木が倒れてしまった

大きな被害がでた

2. ショッピングモールができたことによって、町の様子が変わった。

新しい道路ができたこと

外国人住民の増加

駅前再開発(土地の開発)

高層ビルが建ったこと

新幹線の開通

3. 原料の値上げによって、品物のねだんが上がっている。

石油の値上がり

原油価格の上昇

円安

※「台風の被害(冷夏)によって、野菜の値段が上がっている」のように「品物」を他の言葉に変えて練習しても良い。

4. この会社は人気の俳優をCMに使ったことによって、有名になった。

社長が逮捕されたこと

人気のある選手のスポンサーになったこと

テレビや雑誌で紹介されたこと(社長がテレビに出演したこと、インパクトのあるCM)

ヒット商品を発明したこと(商品が爆発的に売れたこと、日本ではじめて〇〇を発売したこと)

5. 仕事のシフトによって、毎日の生活が大きく変わることもある。

担当する仕事が変わること

引っ越し

ペットを飼う

結婚

何気ない SNS の投稿

新しい趣味を始めること

【C. せっかく】

《注意点》自分がしたことか、相手がしたことかや、残念か非難かなどパターンがいろいろあるので、分けていろいろな例で導入する必要がある。

(1) 導入のための例文(導入方法)

①自分の時間、お金、労力をかけた

- ・残念「～のに」

せっかく受験料を払ったのに、試験の日にかぜをひいて行けなくて残念だった。

父のために家族で誕生日プレゼントを選んだのに、父はそれを気に入ってくれなかった。

せっかく勉強したのに、寝坊して漢字マラソンが受けられませんでした。

- ・活かしたい「～ので」

せっかく N2 に申し込んだのだから(ので)、いい点を取りたい。

友達がせっかく作ってくれた料理なので、残さず食べよう。

- ・非難「～のに」

せっかくご飯を作って待っていたのに、主人は外で食べて帰ってきた。

(ごはんを食べてきてしまった相手に) せっかく作ったのに、ごはんを食べてくれなかった。

せっかくセーターを編んであげたのに、あんまり着てくれなかった。

②与えられた機会

- ・「～のに」

※なかなかめったにないチャンスで、残念なことってある？せっかく友達と海に行ったのに、、、どんな残念なことがあったんだろう。

→台風が来た。寒くて泳げなかった。途中で車が故障して行けなかった。

せっかくの文化発表会なのに、インフルエンザにかかって参加できなかった。

- ・「～ので」 ※せっかくの旅行だから、何をしたい？どこに行きたい？と学生に問う

せっかくの文化発表会だから、勉強の成果を発揮したい親にも見てもらいたい。

明日はせっかくの休みだから、うちでゆっくりしようと思う。

せっかくの集まりだから、お洒落して出かけようと思う。

(2)テキストの練習問題

1. せっかくの機会だから、参加したい。

みんなで集まりましょう

ぜひ一曲歌ってください

連絡先を交換しよう
たくさん友達を作ろう
浴衣を着ていこう
温泉に入ろう

2. せっかく料理を作ったので、みんなに食べてほしいです。

みんなで食べましょう
召し上がってってください
写真を撮って SNS に載せよう

3. せっかく新しい服を着たのに、誰も気づいてくれなかった

彼は気づいてくれなかった
お茶をこぼして、汚してしまった
全然似合わないって言われた
雨に降られて汚れてしまった

4. せっかくの休みなのに、大雨で外出できない。

何も予定がない
起きたら昼の 2 時だった
どこにも出かけなかった(台風でどこにも行けなかった、風邪をひいてしまった)
隣の人がうるさくて、ゆっくりねられなかった
そうじをしろと言われた
主人が家にいる
友達はみんな忙しくて誰も遊んでくれないか

5. せっかくですが、今晚はちょっと、先約があるんです。

今晚はちょっと用事があるんです(別の予定があるんです、アルバイトがあるんです)
明日テストがあるので

【D. ～ことだ】指導、アドバイス

≪注意点≫「ものだ」との違い

(1) 導入のための例文(導入方法)

- ①負けが続いているチームの学生に向かって、コーチが言います。なんと言いますか。
 - ②初めてアルバイトをする後輩に向かって、先輩のあなたは何と言いますか。
 - ③入学式の時、理事長先生がみなさんにまず大切なことを言いました。覚えていますか。挨拶をすること、時間を守ること、そして～こと。
 - ④JLPT に合格したいなら、何をすべき？→毎日一生懸命勉強することだ。
- ※コーチ、講師、先生、店長、親など、明確に立場が上の人が、自分の経験を踏まえ

て一般論的に言う。話し手が一番大切だと思っていることを指導、アドバイス。
※学生や子供が嫌なことで困っているときに、上の立場から厳しい態度で言う。

- ・上手になりたいなら、たくさん練習することだ。
- ・宿題は出すこと、遅刻はしないこと、休む時は連絡すること
- ・日本で就職したいなら、N2に合格することだ。

(2)テキストの練習問題

1. アルバイト先の店長に怒られるのがいやなら、失敗したときはすぐ謝ることだ。

今のアルバイト／次のアルバイトを早く見つける
試験に落ちるの／いっしょうけんめい勉強する
首になるの／遅刻しないで働く
再テスト／一生懸命勉強する
先生に怒られるの／もっとまじめに勉強する
親に言われるの／言われる前に先にやる

2. せきがひどいなら、すぐに病院に行くことです。そうすれば、早くよくなりますよ。

大事なことは、すぐメモを取る／忘れませんよ
負けるのが嫌なら、毎日練習する／試合に勝てますよ
近所の人に会ったら、明るく挨拶する／会話が始まりますよ。(日本人の友達ができない人に)
困ったことがあれば先生に相談する／心が軽くなります、先生が助けてくれます
習った言葉はすぐ使ってみる／記憶に残りますよ。

3. 疲れた時は、お風呂に入ること、栄養があるものを食べること、そしてよく寝ることだ。

ゆっくりお風呂に入る／よく食べる／そして良く寝る
無理をしない／何も考えない／ゆっくり休む
※必要条件を並べる。3つ目が一番大事。ストレスを発散できない人にアドバイスを
する。

4. 日本で働きたいなら、よく日本語を勉強することだ。

夢をかなえ／努力をつづける
痩せ／甘いものを食べない (なかなか痩せられないという後輩に)
希望の学校に入り／地道に努力する
日本にい／アルバイトをやりすぎない
就職し／TIJにいるうちにN1を取る
健康になり／まずはたばこをやめる

5. いい会社に入るためには、学生時代にいろいろな経験をしておくことだ。

いろいろな資格をとっておく
早めに情報を集めておく（研究しておく）
いろいろな学校を比較しておく
N2以上とっておく
いい知り合いを持つ
※「いい会社」を「いい専門学校」に変えてもいい
練習4は1との対照となっている。（練習の順番を1→4→2に変えても良い）

学生にスムーズにミスなく例文を作らせるためには、教師側の適切な導入が必要だと改めて感じました。教師同士で話し合い、授業内での成功例や失敗例をシェアすることで、よりわかりやすい場面設定、誰が誰にどんな気持ちで話しているのか、ということを中心に学生に伝えられると思います。今回挙がった導入例や例文を活用し、その結果をまた全体でシェアし、より良い導入、授業を目指していきたいと思います。

日本語教育実習コース修了レポート

須藤美穂子

2019年4月22日～6月6日、大型連休を挟み全15回の初級日本語教育実習コースを受講させていただきました。通信教育で学び、資格試験になんとか合格した私にとって、毎日が貴重な経験の連続で、学んだことは書ききれないほどですが、授業見学・教案作成・授業実習の3つの観点から振り返ります。

授業見学

初級①～上級、一般クラス。実習することになるクラスを中心としていろいろなレベルを見学させていただきました。先生方の流れるような授業に、つい学生側の視点で一緒に授業を聞いてしまっていることもありました。それが、実際に教案を書く段になると違った見え方になり、模擬授業の段階でまた違った見え方になり…。見学するということが単にクラスの雰囲気を感じただけではなく、重要な意味を持つとは初めは想像すらしていませんでした。回を重ねるたびに新鮮に映り、板書のしかた、キューの出し方といった授業の技術はもちろんですが、学生の体調が悪いのかやる気がないのかを判断して対応なさっている姿なども見ると、学ぶべきことはまだまだ残っているように思います。

教案作成

初めのうちは、自分がこう言ったら学生はどう答えるか？の検討が全くつかず、教案というのは複雑なフローチャートを書かなければいけないのだろうか？という気持ちになってしまい頭が混乱していました。もし学生が①と答えた場合はこう言おう②と答えた場合はこうしよう、③と言ったら？④と言ったら？答えが

出なかったら、どうしよう…、というふうに。

指導を受け、見学を重ねるにつれて、こう言えばおそらくこう答えるだろう、出なければこういう風に自分から持っていく、ということがわかってからはずいぶん頭の中が整理されました。太字や配色のアドバイスもいただき、より整理ができると授業の流れを頭に入れやすくなり教案が授業準備として重要だということがよくわかってきました。

今後常に意識しなければならないこととして、以下の二つがあります。

①教科書の例はあくまでも例

教科書というベースはあるものの、例だけで終わらせず、学生自らが話したいと思うような世界を作ること。学生を絵の世界に引き込んでその世界を共有して発話につなげる。

②細かく書く

教案をざっくり書いてしまうと未習の言葉を言ってしまったり、どういっていかかわからず口ごもってしまったりするので細かく書いていく。

この二点は何度となくご指導いただいた点です。今後も教案を書く上で非常に大事なことだと思います。決して手を抜いたつもりはないと言っても結果として手抜き授業が出来上がってしまえば、言い訳にしかすぎません。

授業実習

初級1のクラスを二回 初級2のクラスを一回の計三回行いました。この三回の実習を通して

①声が小さい

②よけいなことを話してしまう

の二つが大きな注意点・課題として残りました。三回目の実習の様子を録画していただき、恐る恐る見てみると、単に声が小さいというだけではなくピコピコとした声に聞こえて驚きました。喉から声を出すかおなかから声を出すか、自信なさげか自信をもって話しているかが、よくわかりました。②については、ぼそぼそと独り言のように呟きながら板書したりすることが何度かあり、それが大事なことなのかネタなのか独り言なのか当然学生にはわからないので、混乱を招きます。

一回目の実習からこの二つは指摘されつつも改善とはいきませんでした。しかし、逆にこの二つを改善できれば私自身の成長になると思います。

日本語は生まれてからずっと使っている言語です。教えることは日本人なら誰だってそう難しいことではないのではないか、というのが世間一般の日本語教育に対する印象ではないでしょうか。そんな簡単なものではない、ちゃんと教えるということ学ばないといけないと思い私はT I Jの門をたたきました。しかしその時点ではまだ世間一般と同じく、教えることはそう難しいことではないと心のどこかで高をくくっていたのではないかと今となっては感じています。自分の

認識の甘さを痛感する日々ではありましたが、日本語の奥深さ、教える立場でありながら学ぶことの多い現場に楽しさも感じ充実した日々を送ることができました。

ご指導いただいた市川所長、佐々木先生、見学させていただきアドバイスや励まし、お声がけくださった先生方、そして授業を受けてくれた学生のみなさんには本当に感謝しております。ありがとうございました。

教育実習レポート 1

永井麻亜也（獨協大学）



私が日本語教育（日本語について考え始めた）きっかけは、大学受験の英語で挫折をしたことです。それまで英語を得意だと思い込んでいた私は「私には外国語は無理だ」と自棄になりました。しかし、言葉は自分とは切っても切り離せないものであるという認識や、言葉への興味は変わらず持ち続けており、それにより私は大学で自分の言葉である日本語についての勉強をすることに決めました。

先述したように、私は外国語学習から逃げて日本語の世界に足を踏み入れたわけですが、今となっては、日本人にとってこそ日本語は難しいと身にしみ感じています。何気なく使う言葉、頭を使わなくても体にしみこんでいる表現、これらを全く日本語も日本のニュアンスも知らない方々に伝えることがとても難しいことを私は日本語について勉強するまで知らなかったからです。また大学で学ぶ上で「言葉を教えること」について考えさせられました。言葉だけを教えることは不可能に近く、それは日本の文化や歴史背景、今の日本でいわれる常識や暗黙の了解など、非言語の部分に様々なことを含みながら日々言葉は使われているということを感じました。

とはいえ、大学で学べることは座学でしかありません。想像や空想でしかありません。模擬授業をする講座は開講されており、そこでは **teacher talk** や教案を作成する練習も行います。また、大学に来る留学生の日本語の授業を見学もしました。しかし私は実際に日本語学校に通う留学生や一般の外国人を知りたいと思い、ご縁もあり **TIJ** で教育実習をさせていただけることになりました。

まず感じたこと、それは「やはり全然違う」でした。生の学生の反応や学習に対する姿勢、そして何より一番はプロの先生方の授業です。私は、10日間で14名の先生の授業を計25時限分、見学させていただきましたが、どの先生も発声、話すトーン、レベ

ルに合わせた言葉のスピード、語彙が徹底されてわかりやすく、毎回「これが本物か、教壇実習のときは真似しよう」と良いところを盗もうと必死になりましたし、学習の内容に入る前の掴みの話題作りは、本当はすごく考えていらっしやるだろうにスララっと、内容にスムーズに繋がっており「気づいたら教科書の内容に突入しているじゃないか!」と思うことも多々ありました。これも実習の時に盗むぞという気持ちで毎回見学をさせていただいておりました。

しかし、いざ自分で教案を書くとなるとこれといった掴みの話題が思い浮かばないもので、大変苦労しました。教壇実習は2回なので私が学生の手助けをできるのも短い時間です。私は「私にしかできない彼らへのプレゼントは何だろう」これを常に意識し、授業を考えました。今、2回ともを振り返ると、教科書の内容はもちろんですが、全ての学生を巻き込んで雰囲気よく学んでもらえたことが、私からのプレゼントだったのではないかと思います。もちろん『この言葉をもっと拾いたかった』授業後の先生からのアドバイスで『もっと多くのプレゼントを持って帰ってもらえたのに』と悔しさは残ります。しかし、私は私にできることを全てやり切ったと胸を張って言える、そんな経験を積ませていただきました。反省は次、日本語を教える機会があったらもちろん活かしたいと思いますし、何より、学生に対して「この内容を教えよう」から「何を持って帰ってもらおう」という発想の転換が自分の中で起きたのは、実習で自分が得たプレゼントだと感じますし、成長できたポイントかと思えます。

TIJ で日本語教育実習をさせてもらえて、本当に良かったです。感謝してもしきれません。教案の指導など多くのアドバイスをくださった佐々木先生をはじめ、TIJ の全先生方、また、学生の皆様にお礼申し上げます。明日から TIJ に通わないことが寂しいです。本当にありがとうございました。

教育実習レポート2

岡田実奈美（獨協大学）

私が日本語教育に携わり始めたのは知り合いの方が大学二年生の時、日本語ボランティア教室で教えることを勧めてくれたという偶然からでしたが、本格的に興味を持ち始めたのはその場に集まる日本語の学習者でした。日本語を学びに来る人は大半が日本で仕事をしたい、あるいはもっといい条件の仕事を得たいという反面、言語の壁がそれをより難しくしているという問題に関心がありました。私は現在科目等履修生という立場で大学学部生の四年



生の時から日本語教育に関して本格的に学習をしてきました。

そのなかで実習先として受け入れてくださったのが TIJ でした。まず、TIJ の最大の特色と考えるのは「先生方の雰囲気がいい」ということです。もし先生方同士で悪い雰囲気を持ちながら授業を教えていくと、やはりどこかで学生はそれを感じ取ってしまうと思います。本校は日本語を教えるという言語学の観点だけではなく、留学生や学習者を取り巻くビザなどの社会・経済問題についても考えさせられます。私たち実習生が今回主に参加した部分は教師の方々がどのように教えているか、という部分ですが、同時に今後の進路のためのサポートや JLPT などの試験の受験相談、学生らにとって慣れない日本という土地で具合が悪くなったときは一緒に病院に行くなど、真摯に皆さん学生を大切にしていらっしゃると実習中体感いたしました。ほかの学生の方が教育実習で日本語学校を探している場合は、胸を張って本校をお勧めしたいと思います。

正直なところ、日本語学校でどのように教師の方々が実際に教えていらっしゃるのか自分の目で見たことがなく、実習開始前は不安でいっぱいでした。しかし実習が始まると教師の方、学生の方皆さんに優しく受け入れていただきました。丁寧に教案・模擬実習を見てくださったり、色々なクラスが見られるように初級からビジネスクラスまで見せてくださったり、学生はクラスを盛り上げてくれたりと、皆様に助けられて想像以上に貴重な経験をさせていただくことができたと思います。

日本語教師として登壇することはただ、日本語を教えるためだけの経験にはなりません。十何人の前でわからないテーマに「注意を向けさせる」「場を巻き込ませる」「印象に残ってもらう」ようにするテクニックが必要であり、これは日本語教育の現場以外でもとても必要とされる力だと思われれます。それにはユーモアを交え、架空の話だけではなく実際にある事象などを積極的に取り扱わなければなりません。それを今回学ぶ機会をいただいたことは、今後私の人生において大きな経験となったと感じられます。

末筆ではございますが、今回は本当に二つとない貴重な経験をさせていただきました。教務主任の佐々木先生、市川所長、授業見学をさせていただいた先生方、そして指導教官でありました阿字地先生には特に多大なる助言、サポートを賜りました。これからも何かしらの形で日本語教育にはかかわっていききたいと再度思わせていただける経験となりました。ありがとうございました。